

日時：令和3年2月20日(土) 10:00~11:55

場所：本校 校長室

参加者：

＜協議会委員＞（敬称略）

大阪府立大学 大学院人間社会システム科学研究科 教授	伊井 直比呂
本校PTA会長	高山 晃彦
本校同窓会会長	南 登章生
泉佐野商工会議所 専務理事	上野 公義
大阪大学大学院 人間科学研究科附属未来共創センター 特任教授	榎井 縁
泉佐野市立佐野中学校 学校長	古谷 秋雄

＜事務局＞

校長	南部 潔
教頭	藤原 和美
事務長	佃 計司
首席兼総務生徒指導部長	木村 明

配付資料：

1. 第2回学校運営協議会の記録
2. 令和3年度学校経営計画及び学校評価（案）
3. 2020 SANO マネジメントシート達成状況
4. 令和2年度の学校教育自己診断結果について
5. 2020 授業アンケート結果

意見聴取内容：

○第2回記録確認

事務局の説明後、特に意見なく内容承認

○報告及び協議

意見：◇コロナ禍で大変な中、先生方は工夫し苦勞されてきていることがよくわかる。生徒も前向きに取り組んできた。

◇遅刻が大きく減少したことは、生徒が学校に来ることを積極的に考えていることの現れだろう。それが学校全体の雰囲気にもつながっている。

◇One World Festival for Youth は本学の学生が運営に携わり、コーディネートをした。オンラインで多くの学校の生徒が活発に発表している姿を見ることができた。

◇コロナ禍でオンラインによる国際交流を余儀なくされているが、逆に誰でもが参加しやすくなるのではないかと。国際教養科だけではなく、全校の生徒にも機会が広がる。またつながりさえすれば、直接訪問することの様々なリスクを考慮することのないので、交流する国や地域が広がる可能性がある。英語などだけでなく、生徒の興味を幅広く結びつけることができる。SDGsは課題の幅が広いので可能性が広がる。こういった取組みを学校の強みとしていくことができるのではないかと。すそ野を広げるチャンスである。

・ご助言どおり、今後も引き続き国内外の教育機関等とオンラインによる連携を実施していきたい。
◇不安な点は学校教育自己診断の教職員へのアンケート結果で、組織的な連携・対応などの肯定的評価が大幅に減少していること。教員一人ひとりが孤立感や疲弊感を感じていないか。教員が個々に抱え込まず、疲弊しない組織のあり方を検討してもらいたい。

・臨時休業期間が2か月続き、職員会議などを持つことが難しい時期があり、組織的な連携や対応が思うように取れないことがあった。コロナ禍がしばらく続くことも踏まえ、オンラインでも会議ができるようにしていきたい。

◇生徒対象の学校教育自己診断結果ではコロナ禍で大変な状況の中、先生方のがんばりがよくわかる。

- ◇文化祭や体育祭などの行事や中止や縮小にはなったが、項目では肯定的評価が経年で上昇している（項目3）。先生方や生徒の皆さんのがんばりがわかる。
- ◇保護者は、全体として不安に感じていることが多いようだ。保護者の不安をできるだけなくすような情報発信が求められる。
 - 全体への緊急連絡が困難なコロナ禍においては、これまでのメール配信に加えて、Google Classroomなどを活用し、よりこまめな連絡や情報発信ができるようにしたい。
- ◇先日の夕刻、泉佐野駅を向かう途中で、ある女性が自転車で車道から歩道にあがろうとして転んだ。われわれ大人は見ているしかできなかったが、下校途中の佐野高の女子生徒2人がすぐに駆け寄り、自転車を引き起こし、女性に声をかけていた。その風景を見てほっとする心地がした。
 - ありがとうございます。生徒や教職員にも共有いたします。今年度は、逃げた飼い犬をつかまえて届けてくれたとお礼を伝えに近隣住民の方が学校に来られたこともあった。本校の生徒が地域の方の役に立っていると思うと大変誇らしい気持ちになります。
- ◇全体として先生方のがんばりを感じる。先生方自身も感染の不安を抱えながらがんばられていることだろう。
- ◇授業に関する評価が上昇していることは、先生方の授業への工夫が生徒に受け止められているということなのだろう。
- ◇遅刻数が減少しているということだが、生徒の学校への姿勢が前向きということだと思う。高校を卒業して、社会に出ていく生徒も多くいるわけであるから、社会常識という意味で遅刻をしないことは大切なことであるという訴えかけは続けてもらいたい。
- ◇「佐野高校には他校にない良さ（特色）がある」という項目の肯定的評価が下降傾向なのが気になる。私学も含めた他校はいろいろな特色を出しているかと思う。ICTを活用した国際交流などうまく特色を出して行ってもらいたい。
 - ICTを活用した国際交流に加え、本校が大切に取り組んできた国際教育に関する情報発信も積極的に行っていきたい。
- ◇コロナ渦で登校が難しくなった。また臨時休業で生活リズムが崩れたケースもある。逆に不登校傾向の生徒は学校が再開した当初の分散登校はよかったが、通常の数に戻った時にしんどくなったということがあった。佐野高校ではどのような状況か。
 - 学校が再開した際に、長い臨時休校があったため、学校生活のリズムをつかむのに時間がかかった生徒がいた。学校として、調子を崩している兆候が少しでも見られたら情報共有して見守り続けてきた。いつにも増して細やかな対応が求められていたように感じた。
- ◇学校の取組みの発信という意味では、本校では教頭先生にお願いして、ホームページから発信をしてもらうようにした。現在は毎日更新されている。些細な毎日の日常を掲載している。日々300件を超える閲覧があり、保護者からも反響がある。
 - 学校ブログを活用して、日々の学校の様子を情報発信できるように努めたい。
- ◇佐野高校としてよい取組みをどんどん発信すべき。下水道工事などの環境整備や国際交流などよいことをより具体的に発信すべきである。
 - 今年度は長い臨時休業のため、夏季休業も大変短く、暑い中での授業が続いていたところ、書道及び理科の実験室に同窓会より空調設備を寄付いただいた。おかげで、生徒たちは快適に学習活動ができたことなども発信していきたい。
- ◇学校教育自己診断で「佐野高校には他校にない良さ（特色）がある」の項目の評価が低い国際交流などに関して、より具体的で教育効果がねらえるような文言にしてはどうか。
 - 本校の良さ（特色）がよりよく伝わるような方法を検討したい。
- ◇国際関係科10校の中でどのように特色づくりをしていくかが課題。
 - 本校が大切に取り組んできた国際教育を深化発展させ、SDGsに関連した課題研究を3年間体系的に取り組めるようにし、情報発信に努めたい。
- ◇泉南地域の中学校を訪問するという目標だが、こういった取組みはよい結果につながるだろう。
- ◇学校教育自己診断の教職員の提出率が低いだが、これは100%をめざすべき。教員の評価は隔年現象でよかったり悪かったりするが、佐野高校の教職員の評価は全般的に厳しい。より具体的な内容で項目も集中的に絞ればどうか。
 - 再度見直しを行いたい。
- ◇学校経営計画は、毎年取組み内容が同じようである。アンケート結果などの数値を踏まえて、見せ方を変えてはどうか。
 - 来年度の学校経営計画に向けて参考にしたい。